

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第116回本部会議 記録

日 時／令和4年7月8日（金）
15：00～：15：22
場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第116回本部会議を開催します。まず、道内の感染状況等について、感染症対策局長から説明願います。

【古川感染症対策局長】

まずスライド1をご覧ください。主な指標の状況について、昨日、7月7日時点で、新規感染者数は、今週先週比で1を上回り、人口10万人当たりの新規感染者数は、札幌市104.8人、札幌市を除く地域で77.1人、全道で87.5人と、いずれの地域も増加しています。また、病床使用率は、札幌市11.7%、札幌市を除く地域は6.3%、全道8.1%と、足下で増加しています。療養者数も同様の傾向にございます。

続いて、スライド2です。各圏域の状況を見ると、新規感染者数は、多くの圏域で先週比が1を超え、増加に転じています。病床使用率は、札幌市を含む道央圏や十勝圏で増加し、その他の圏域では緩やかな減少が見られております。

続いて、スライド3総評1です。医療提供体制です。療養者数は、増減しながら横ばいとなっており、人口10万人当たりで110.0人。病床使用率は、横ばいで推移しておりましたが、7月2日以降は、足下で増加し、8.1%となっています。

感染状況です。新規感染者数は、5月19日から46日間に渡り、先週比が1を下回っておりましたが、7月5日に1を上回り、足下で増加しています。特に、札幌市を含めた道央圏では、先週比が大きく増加しております。年代別では、引き続き30代以下の割合が約6割、60代以上が約1割の状況が継続しております。国の専門家からは、新規感染者数は、全国的に上昇傾向に転じ、増加速度の速い地域も見られること、大都市における短期的な予測では、今後、新規感染者数の増加が見込まれるとされているところがございます。

続いて、スライド4総評2です。7月6日、道内において、オミクロン株の派生株でありますBA.4系統の感染事例が初めて確認されました。道内では、BA.4系統は2件、BA.5系統は10件検出されておまして、今後も、ゲノム解析により、その動向を監視してまいります。国のアドバイザリーボードによりますと、これらの系統は、現在主流でありますBA.2系統と比較し、感染者増加の優位性が示唆されておりますが、WHOレポートでは、重症度の上昇は見られないとされております。

今後の対策です。これまで新規感染者数の減少傾向が長期間続いておりましたが、札幌市を含めまして道央圏を中心に増加に転じた状況となっております。地域のイベント再開など、社会経済活動の回復が本格化する中、感染の急拡大を防ぐため、引き続き、感染状況等をモニタリングし、3つの行動やワクチン接種の促進について、これまで以上に注意し、日常生活での実践について、「感染拡大防止に向けた道民の皆様へのお願い」により、呼びかけてまいります。

旅行やイベントなどで、人の活動が活発化する中、全国的に感染者数が増加しているこ

とから、特に、普段会わない方と会う場面や人が多く集まる場所など、人との接触が増加する場面などでは、適切なマスクの着用や手洗い、消毒など、基本的な感染防止行動を注意して実践いただくよう、呼びかけを進めてまいります。

次に、スライド5総評3です。保健、医療提供体制は、これまで充実、確保に努めてきておりますが、感染状況に応じ、適切に対応することができるよう、再確認を行います。

道の接種センターで実施しております、ノババックスワクチンの接種は、今月24日から来月28日までの間、1日当たりの接種回数を、これまでの2倍の240回に拡大しました。また、北見市で接種を開始したほか、函館市や旭川市でも今後接種が開始されることとなっております。引き続き、より多くの市町村で接種が受けられるよう、調整を進めてまいります。

4回目接種につきましては、道の接種センターで集団接種を実施するとともに、対象者に向けた広報や高齢者施設での接種促進を含め、引き続き、関係団体とも連携し、市町村への支援に努めてまいります。また、3回目接種は、道の接種センターの活用を図るほか、大学と連携した接種促進に向けた取組など、様々な機会を捉えた働きかけを行ってまいります。

次に、スライド5以降につきまして、何点か主要な動向等を補足説明いたします。

少しスライドを飛ばしていただきまして、スライド24をご覧ください。年代別の感染者の割合は、各世代に大きな変動はなく、引き続き、30代以下の割合が最も高く、65%前後で推移しております。また、60代以上は、12%前後で推移しております。

スライド25をご覧ください。集団感染の発生状況は、前週、札幌市内での発生が確認されないなど、件数、人数ともに減少傾向でありましたが、7月に入り、複数の集団感染が確認されるなど、足下で増加が見られます。

スライド26をご覧ください。ワクチンの3回目接種の状況ですが、7月6日現在、VRSベースで約335万4千人、接種率は64.1%。このうち、65歳以上の高齢者の方は、約150万人、接種率は89.9%となっております。下段の表、小児の接種率は、未だ高くはないものの、1回目20.0%、2回目18.2%と、全国を上回る状況が継続しております。

スライド27をご覧ください。全道の3回目接種の年代別の状況ですが、65歳以上は高い水準にあるものの、10代では、31.7%にとどまっている状況にあります。また、20代、30代では、全国の接種率を上回り、50%前後となっているものの、依然、他の年代よりは低いことから、若年層の接種の更なる加速化に向け、市町村の取組を積極的に支援してまいります。

次に、スライド29をご覧ください。マルの4つ目、3回目接種を受けていない方への情報提供に取り組むとともに、道の接種センターも活用し、人の移動や世代間交流が活発となる夏休みやお盆シーズンに向けた接種率向上に取り組んでまいります。

スライド31をご覧ください。道の接種センターで実施しているワクチンの種類や、接種の回数、対象者等を一覧でまとめたものでございますので、後ほどご覧ください。

続いて、スライド32です。マルの1つ目、道の接種センターで毎週日曜日に実施しておりますノババックスワクチンにつきましては、道民の皆様から、高い関心をいただいております。接種回数をこれまでの2倍の240回に拡大して、今月24日接種分も、既に予約枠を満たしている状況でございます。今月31日の接種分は、接種回数を、24日と同様に拡大しまして、来週12日から受付する予定でございます。また、市町村でのノババックスの接種につきましては、北見市に続きまして、函館市、旭川市においても順次、実

施されてまいります。引き続き、道民の皆様が身近な地域で接種が受けられるよう、今後も他の市町村での実施を呼びかけてまいります。

マルの3つ目、毎週、土曜日と祝日に実施しておりますモデルナワクチンによる3回目と4回目接種につきましては、いずれも全日程に空きがある状況でありますので、広く接種を呼びかけてまいります。

その他のスライドにつきましては、本日の説明に関するデータや情報でございますので、後程、ご覧いただければと思います。資料1の説明は以上でございます。

続きまして資料2をご覧ください。資料1「道内の感染状況等」について、専門家や有識者の皆様のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせしております。有識者や専門家の皆様からは、概ね「妥当である」旨のご意見をいただいております。その主なものについて、ご紹介いたしますと、1のとおり、今後の感染拡大時の対策として、道民の行動制限や、飲食店等の営業自粛に対する要請などについて、国に考え方を求めるなどの対応をお願いしたい、2のとおり、感染者の増加傾向が認められ、重症者はこれから増加する可能性がある。ワクチンの3回目、4回目接種を対象者に勧めてほしい、経済を動かしつつ、個人の対応は今までどおり続ける対策はよいと思う、といったご意見が寄せられておまして、こうした面については、今後の対策の参考としてまいります。

私からの説明は以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして札幌市の感染状況についてご説明します。

それでは、最初のスライドをご覧ください。新規感染者数の1週間の推移でございますけれども、昨日の7月7日の時点で2,056人、人口10万人当たりでは約104.8人と、先週から増加に転じているところでございます。なお、札幌市内におきましては、オミクロン株のBA.5系統の感染事例が先週初めて確認されたところではありますが、今週になりまして、別系統でありますBA.4系統の感染事例が、2例市内で新たに確認されたところでございます。現在、国から正式な見解は示されてはおりませんが、これまでのBA.2系統よりいずれも感染力が強いとも言われており、今後も引き続きゲノム解析を行い、置き換わりの状況について注視してまいります。

それでは、次のスライドをご覧ください。入院患者数でございますけれども、黄色い棒グラフですが、昨日の時点で87人となりまして、先週と比べて増加傾向が見られております。重症患者数は赤の折れ線グラフでございますが、これは0人の状況が続いてございます。現時点では病床使用率も低い水準にあり、入院調整も積極的に実施しているところでありますけれども、新規の入院患者の大半が軽症者である傾向に変わりはなく、直ちに病床が不足する状況にはないと考えております。

それでは、最後のスライドをご覧ください。検査件数でございます。直近の1週間では9,953件の検査を実施しているところでございます。陽性率は昨日の時点で20.7%と赤の折れ線グラフでございますけれども、増加しているところでございます。

全国的に新規感染者数の増加が見られておりますが、これまでどおり、手指消毒や換気など、基本的な感染対策が重要であることに変わりなく、場面に応じた適切な感染対策を取ることが必要と考えております。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部、振興局から順次発言をお願いいたします。建設部長からお願いします。

【北谷建設部長】

建設部におきます屋外イベントの感染防止対策等についてご説明申し上げます。

資料4をご覧ください。建設部では、恵庭市及び公益財団法人都市緑化機構との共催で、令和4年6月25日から7月24日までの1ヶ月間、恵庭市の花の拠点「はなふる」をメイン会場に、第39回全国都市緑化北海道フェア（愛称：ガーデンフェスタ北海道2022）を開催しております。このフェアは、「はなふる」を中心に、北海道全体を会場といたしまして、全国的にも最大規模で開催しております。来場者数の目標を30万人としており、これまで大変多くの方にご来場いただき、7月3日時点で、10万人を突破したところでございます。

それではこのフェアにおける感染防止対策についてご説明します。まず、入場に対してですが、このフェアは、入退場が自由な屋外イベントであります。入場ゲートでの手指消毒を義務付けることや、COCOAアプリのインストールを確認することなどは、ゲート付近で混雑を生じさせる可能性がありますことからあえて行わず、スムーズな入退場の確保に努めているところでございます。入退場は自由なのですが、その代わりといたしまして、人の密集状況を測定できる装置の活用により、会場内の混雑状況を常に把握し、キャパシティを超えないように努めているところでございます。そしてキャパシティを超えそうな場合には、入場ゲート付近ではなく、駐車場の段階で入場を止め、待機や再度の来場の呼びかけをする入場制限を実施することとしております。また、メリハリを効かした感染防止対策といたしまして、入り口での手指消毒を義務化しない代わりに、屋内エリアやシャトルバスなど感染リスクが高いと見込まれる場所では消毒やマスク着用を徹底しております。また一方で、混まない日の散策エリアなどでは、場合によってはマスクの着用が不要となる旨を案内所でのチラシの配布等により周知しているところでございます。以上、建設部におけます感染防止対策の取組についてご説明申し上げましたが、このフェアは、暑い時期の屋外で行うイベントでありますことから、状況に応じたメリハリのある対策により、安全安心に努めているところでございまして、道内外からの多くの皆様にご来場いただき、北海道の夏を楽しんでいただきたいと思いますところでございます。

以上でございます

【副本部長（小玉副知事）】

そのほかご発言ありませんか。なければ本部長からお願いします。

【本部長（知事）】

全国的に新規感染者数が大きく増加しております。東京都では先週比が2.02になっており、国の専門家は全国的に上昇傾向に転じたと指摘しています。道内の感染状況についても、局面が大きく変わりました。これまで長く続いてきた減少傾向から増加傾向に転じま

した。昨日の人口10万人当たりでは87.5人となりまして、先週比では1.17となりました。札幌市を含めた道央圏を中心に、新規感染者数が増加する状況になっております。本日の新規感染者数は887人となり、今後の感染者数の増加も見込まれます。様々な活動が活発化し、人との接触が増加するとともに、オミクロン株の派生株が相次いで確認されてきました。こうした動きの中で、今回の局面の変化が現れてきました。先週、初確認されましたBA.5系統、これに続きまして、一昨日にはBA.4系統が札幌市で初めて確認されました。派生株は12件が道内で確認される状況になっています。特にBA.5系統は、今後、国内の主流系統になると指摘されています。道内においても感染拡大につながることに懸念されます。こうした局面の変化には速やかに対応していかなければなりません。このため、今後の感染者数の急増も想定し、必要な病床の確保や検査能力の拡充、自宅療養者への対応、宿泊療養施設の運用、さらには、保健所の体制など、状況変化に適切に対応できるように保健、医療提供体制の再確認を早急に行うように指示をいたします。

そして、社会経済活動を着実に進めていくために、第三者認証店や観光事業者の方々には、今一度、感染防止対策について再確認するよう働きかけをお願いします。

現在、病床使用率については、8.1%と低い水準で推移をしておりますが、全国的な感染拡大や道内の感染状況の変化、これを踏まえて、道として警戒感を高め、医療への負荷の状況を慎重にモニタリングしてまいります。各本部員、地方本部員には、こうした局面の変化や必要な対応について認識を共有し、3つの行動を日常生活において徹底し、特に人の活動が活発化していることから、普段会わない方と会う場面や人が多く集まる場所では一層注意することを改めて道民の皆様、そして事業者の方々に呼びかけをしていただくよう指示をいたします。

また、3回目、4回目のワクチン接種を検討いただくことを市町村と連携して、呼びかけをお願いします。そして、今月下旬には夏休み、来月にはお盆休みを迎えます。こうした時期において、道民の皆様特に実践をしていただきたい行動について、検討を進めるよう指示をいたします。

ワクチン接種について、道民の皆様から高い関心をいただいておりますノババックスワクチンの接種については、道のワクチン接種センターでの1日当たりの接種回数を倍増させ、市町村での接種を順次開始してまいります。北見市では昨日から、函館市や旭川市も今後、接種を開始いたします。多くの道民の皆様が地域で接種することができるよう、引き続き、その他の市町村での実施を含め、調整を加速してください。

3回目の接種については、若年層の接種率の向上が課題となっていましたが、30代については5割を超えました。30代、20代でいずれも全国より高い率で推移をしております。感染状況が増加に転じている中、重症化予防といった効果が期待されるワクチンの接種が重要になります。若年層を中心とする3回目の接種促進に向け、様々な機会を捉えて働きかけをお願いします。

そして4回目の接種については、今後、接種のピークを迎えてまいります。道のワクチン接種センターの活用も含め、市町村と連携しながら、接種できる時期を迎えた方に接種を検討していただけるよう、高齢者をはじめ、対象となる方々への効果的な呼びかけを行うなど促進の取組を指示します。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いします。
以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第116回本部会議を終了します。

（了）